

第8回自動車整備技術の高度化検討会 議事概要

1. 日時：平成25年6月17日(月) 14:00～16:00

2. 場所：経済産業省別館 1階 114号会議室

3. 出席者：

須田委員、古川委員、廣中委員、松井委員、帯刀委員、野口委員、高橋委員代理、
福内委員、中嶋委員、高橋委員、杉山委員、森本委員、富田委員代理、大森委員、
島委員

4. 議事概要

(1) 一級整備士に係るアンケート調査の報告

事務局より資料3について説明があった。

主な意見等は次のとおり

・ 杉山委員

アンケート調査で「実務経験が足りない一級自動車整備士が存在する」という指摘があるが、このような指摘に対して一級の実務経験を積ませるためには、一級の行っているインターンシップが有効である。なお、一層有効なものとなるよう運用の改善が必要であり、今後国土交通省にもご支援・ご指導をお願いしたい。

(2) 報告書案の審議

事務局、中嶋委員より資料4について説明があった。

主な意見等は次のとおり

【環境整備関係】

・ 高橋委員

第2章でまとめてある自動車整備事業者のIT化、ネットワーク化について、ヨーロッパ等においても進められており、日本も早急に取り組んでいく必要がある。

・ 中嶋委員

スキャンツールは誰でも購入して使用することができるが、アクティブテスト等、自動車技術に対する知識が不十分であると自動車に不具合を与えることや作業者に危険を及ぼす可能性もあるような機能も備えている。したがって、報告書を踏まえた今後の検討において、一定の技術をもつ認められた者に対してIDを与え、資格のあるものにはスキャンツールに対しても高機能なものを活用できるような手法も考えられる。すなわちスキャンツールの面でも、作業者の技量に応じて使用範囲が変わってくるというように将来的には考えていけたらどうか。

- ・ 廣中委員

作業者に資格を与えるという方法もあるが、ヒューマンエラーは避けられない。メーカー側では、自動車の車載コンピュータ側に誤った信号が入力された際にその信号を拒否するといった自己防衛を図るということで対応を考えている。

【人材育成関係】

- ・ 杉山委員

自動車大学校や整備専門学校への入学者数はここ数年も減少傾向であるが、過去10年というレンジで見ると半減しており、報告書もこの旨を訂正すべき。

資料3については、整備事業者の実態を示す貴重なデータであるが、今後、魅力ある整備士の環境整備の検討にあたっては、整備事業者のみならず、実際に働いている整備士や学生の声も踏まえたうえで検討を進めていただきたい。

- ・ 森本委員

全国自動車短期大学協会も全国自動車大学校・整備専門学校協会と同様な状況で同意見であるため、報告書の「魅力ある整備士の環境整備」の項目において、自動車大学校や整備専門学校とともに自動車短期大学も加えていただきたい。

- ・ 帯刀委員

一級整備士資格取得の優位性に係る方策等について、ターゲットが学生なのか、既に整備工として働いている者なのか不明確であり整理すべき。

→事務局より、ターゲットは両者である旨を説明するとともに、報告書を踏まえた今後の検討においては、ターゲットを明確にして進めていく旨を説明。

【全体を通して】

- ・ 古川委員

報告書の取り組みは非常に重要なものであり、目標とするスケジュールを入れるべき。

→事務局より、コストも発生する事案であるので、具体の年度を入れるのは難しいが報告書の表現を工夫する旨を説明。

5. 報告書について

事務局から以下について、案内があった。

- ・ 今回の審議内容を反映し、報告書を作成していくこと。
- ・ 報告書案の意見について、更なる意見がある場合は、6月21日までに頂きたいこと。
- ・ 報告書の取りまとめについては、各委員とすりあわせの上、須田座長一任で取りまとめること。
- ・ 報告書を取りまとめた際には、国交省より公表したいこと。